神の建造のための祭司職の回復（2） 第 7 週 祭司の体系の中心的で究極の点

鳥瞰	出エジプト記第 28 章 15 節から 30 節によれば、裁き（決断）の胸当てが祭司の衣服の中心的な項目であり、祭司の体系の中心的で究極の点です。胸当ては召会を予表し、その目的は神の導きのためです。裁きの胸当ては、天的で、神聖で、霊的なタイプライター（キーボード）として機能して、神の光が照らし、石の明暗で神のみこころが現されました。胸当ての上に十二の宝石があり、その上にイスラエルの十二部族の名が彫られていました。これは贖われ造り変えられた神のすべての民が共に建造されて一つの実体となることを表徴します。ウリムとトンミムが胸当ての中へと入れられた後、それは記念となっただけではなく、裁きの胸当てとなりました。またウリムとトンミムのある胸当てを通して彼が語る方法は、わたしたちが期待することと相反します。	
	真理要点	経験適用
1日	1．祭司の衣服の中心的な項目は胸当てですが、その機能は何のためにあったのでしょうか？ 2．胸当てとエポデはそれぞれ何を予表していますか？またどのように用いますか？	1．出エジプト記第 28 章 15 節によれば、胸当ては裁きの胸当てと呼ばれました。ここの裁きは、神の民が神の導きを知ることができるためです。神の導きを知ろうとするなら、わたしたちは何であれ肉、自己、古い人、この世からの物を裁かなければなりません。この裁きは、わたしたちが神の導きを知る道を明確にします。 2．胸当ては召会を予表し、エポデはキリストを予表します。こうして、エポデの上の胸当ては、召会がキリストによって、彼の胸の上に抱かれていることを表徴します。さらに、神の導きが胸当てによって知らされたという事実は、わたしたちが召会を通して、召会によって、召会と共に何を行なうべきかを、今日、神が啓示されることを示しています。召会は神の導きです。なぜなら、召会は神聖なアルファベットを担っており、それによって神はご自身の導きを知らせるからです。
2日	1．エポデ全体、その肩当てと胸当ては、どのようにキリストと召会を描写していますか？ 2．わたしたちの人生で多くの苦難や困難、問題がある時、どのようにして慰められますか？	1．エポデの上の胸当ては、神の贖われた民をキリストの上に共に建造する召会を表徴します。金の枠にはめ込まれていた十二の宝石は、造り変えられた宝石としての聖徒たちがキリストの神聖な性質の中で共に建造されて一つの実体、すなわち、キリストのからだとしての召会となったことを象徴します。ですから、胸当ては神の民の建造の縮図であり（参照、創 2:12 のフットノート 1、それはキリストにある信者たちが個人の区別はあっても、分裂していないことを示します。 2．出エジプト記第 28 章 30 節は言います、「アロンはイスラエルの子たちの裁きを、エホバの御前で絶えず胸の上に担わなければならない」。これが表徴するのは、一つの建造された実体としての召会全体が共に、神の御前でキリストの愛する心の上に抱かれているということです。わたしたちの間の多くは苦難と困難を持っています。わたしたちは神の御前で、キリストの心に抱かれていることを認識する必要があります。
3日	1．ウリムの機能とその霊的な意義を説明してください。 2．わたしたちはどのようにしてキリストの行ける手紙となりますか？またわたしたちに対し、どのようにして神に語らせますか？	1．ウリムは照らす物であり、胸当ての中へと、十二の石の下に、挿入されました。ウリムには、燃やすための油を入れる所があり、油を燃やすのに用いられた火は、祭壇から来ました。ウリムには十二の照らす物があり、それぞれは胸当ての上の十二の透明な宝石の一つを照らして、宝石が光を発することができるようにしました。ウリムが予表するのは、キリストが光、照らす者として、その霊（油）と十字架（祭壇からの火）を通して照らすことです。 2．原則は、コリント人への第二の手紙第 3 章のキリストの生ける手紙についても同じです。キリストがわたしたちの存在の中へと書き記されてはじめて、わたしたちは彼の生ける手紙となります。石に文字が書き記されていないなら、神は胸当てを通して語ることができなかったように、神の贖われた民にキリストが書き記されていないなら、神は彼らを通して語ることはできません。そうです、主は彼の贖われた民を通して語られます。しかしながら、彼は実は、彼らの中へと書き記されたキリストを通して語るのです。これが意味するのは、わたしたちがわたしたちの存在の中へと文字として書き記されたキリストの内容を必要とするということです。
4日	1．トンミムの機能とその霊的な意義を説明してください。 2．神の導きを知るために、わたしたちはどのように協力しますか？	1．「トンミム」は、「成就する者、完成する者」を意味します。胸当ての十二の宝石の上にある名は、ヘブル語アルファベットの二十二文字のうち十八だけを含んでいました。その他の四文字はトンミムの上にあり、トンミムを、成就する者、完成する者としました。個々の宝石の上でのウリムの照らしによって、二十二文字のアルファベット全部が用いられて、単語と文章を書き出すことができました。新約において、ウリムとトンミムの実際は、ミングリングされた霊、すなわち、わたしたちの受け入れる霊（わたしたちの再生された人の霊）に内住する、神の明らかにする霊（聖霊）です。 2．わたしたちが主の導きを受けようとするなら、わたしたちについての多くの事が神によって裁かれる必要があります。わたしたちの肉、間違った行ない、わたしたちの天然の命はすべて、神によって裁かれなければなりません。神の規則は、これらすべての事が退けられることを要求します。その後に残るものが真に神からのものです。このようにして、わたしたちは神の導きを知るようになります。
5日	1．胸当ておよびウリムとトンミムを通して主が語るためにはどのような条件が必要でしょうか？ 2．ウリムとトンミムのある胸当てを通しての神の語る方法は、わたしたちが期待することとどのように相反していますか？	1．胸当ておよびウリムとトンミムを通して主が語るためには、イスラエルの子たちの名が彫られた十二の宝石のある胸当てを作ることを必要とし、また大祭司が胸当てを胸（心の上）に担うことを必要としました。同じ原則で、召会および照らす方（ウリム）また完成する方（トンミム）としてのキリストを通して神が今日、語るためには、造り変えられた透明な宝石である、霊的なアルファベットの文字としてのキリストが書き記された信者たちをもって召会が建造されることを必要とし、また導く者が心の上に召会を担うことを必要とします。 2．神は、輝いている宝石を通して語るのではなく、暗くなる宝石を通して語ります。これは神が消極的な状況を通して語ることを意味します。通常、胸当ての十二の石は、ウリムの輝きの下にありました。突然、ある名の彫られている石が暗くなりました。このように特定の石が暗くなることが、神の即時的な語りかけでした。実は、神は突然暗くなったその石を通して語られました。
6日	1．使徒パウロがコリントの召会に宛てた書簡は、わたしたちに何を啓示していますか？ 2．わたしたちが必要な二種類のアルファベットとは何でしょうか？	1．使徒パウロは真に輝いている人でした。パウロはコリントに在る召会のある暗い部分、神の裁きの文字である部分を見たので、裁きの書としてコリント人への手紙を書くことがでました。しかしこの書簡に含まれたすべての裁きと共に、多くの積極的な事柄があります。それは、コリントの信者たちに供給されたキリストの豊富です。 2．造り変え、透明さ、書き記すこと、照らしに欠けているので、わたしたちは、自分が透明になり、キリストがさらに多くわたしたちの中へと書き記され、さらに多くの照らしを経験するように祈る必要があります。胸当てとウリムとトンミムをもって、わたしたちは二種類のアルファベットを見ます。もしわたしたちがまだキリストで満ちていないなら、わたしたちが必要とするのは書き記すことです。わたしたちはキリストで満ちているとき、完成が必要であることを認識します。
まとめ	詩篇 73 篇は、神の御旨が、神の聖所―召会に入ることであることを啓示しています。大祭司の衣の上には胸当ての付いたエポデがあり、その上にある十二の宝石にはイスラエルの十二部族の名が彫られ、肩当ての両側の宝石にはそれぞれ六部族の名が彫られています。彼は愛の中で神の選びの民を肩に負って神の御前に出ます。ウリムとトンミム―ミングリングされた霊―を通して、聖徒たちの情況を読み、彼らが消極的な情況にあるときに、宝石は暗くなり、アルファベットを現し出します。それは天的なタイプライターのようであり、神の導きを明らかにします。	